

女子大学生の恋愛と結婚に対する意識調査（第3報）

——ジェンダー意識と理想の男性像との関係——

三木 幹子

(2018年10月9日 受理)

Female College Students' Views on Love and Marriage (Part 3)
—— A Relation between Gender Awareness and Their Ideal Images of Men ——

Motoko MIKI

Abstract

A gender consciousness questionnaire was administrated to female college students. Factor analysis revealed the following relations between their gender awareness and their conditions for choosing marriage partners:

- Women who want men with “financial stability” have a strong awareness of gender. On the other hand, women who don't are independently oriented and eager to work the same as men.
- Women who want men with “a good nature and personality” are aware of their own sex as women, and tend to want men who are tender and have integrity.
- Women who want “masculine” men have a weak awareness of gender, but take care of their appearance with a strong sense of good manners.
- Women who want “good looking” men hope for a happy marriage with lofty ideas about their marriage partners, including a good appearance. Also, they tend to be sexually attractive, with a weak sense of rivalry with men.

Keywords: 官能評価 ジェンダー 恋愛 結婚

I はじめに

前報¹⁾ および前々報²⁾において、女性が求める理想の男性像の範囲を明らかにするために、女子大学生を対象に、恋愛と結婚相手の条件、および理想の男性と男性の日常行動・性格・恋愛特性などに関する許容範囲についてアンケート調査を行った。さらに、被験者の好きな男性有

名人のイメージ評価を行い、意識調査との関係について考察を行った。

その結果、結婚相手の条件に経済力を求めるか否かによって理想の男性への考え方が異なること、また具体的にイメージする理想の男性像によって恋愛観・結婚観に違いが見られること等が明らかとなった。

女性にとって結婚は新たな人生のスタートであり、それまでの生活スタイルが変化することを意味している。自分がどのような人生やライフスタイルを過ごしたいかによって、男性に求める条件は異なるを考える。理想のライフスタイルの中には、仕事や出産・子育ても当然重要な要素として含まれるだろう。

そこで、本研究では、女子大生を対象に、仕事や結婚等に関するジェンダー意識についてアンケート調査を行った。また、理想の結婚相手の条件との関係について考察した。

Ⅱ 調査方法

1. 調査時期

2014年11月および2016年11月

2. 調査対象

被験者は女子大学生197名

3. 調査内容

質問紙法によるアンケート調査を実施した。

(1) ジェンダー意識

女性が日常生活で体験するであろう、仕事・結婚・家庭への意識、男女平等、性役割等、ジェンダーを意識する行動に関する質問を25項目設定した。評価にはSD法を用い、各項目について「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」の5段階で回答してもらった。評価に用いた質問項目を図1に示す。

(2) 結婚相手に求める条件

結婚相手に求める条件を選択肢から選び、1位～3位まで回答してもらった。条件の選択肢を図2に示す。

ジェンダー意識アンケート

以下のジェンダー意識に関する質問について、1～5の当てはまる数字に○を付けてください。

	全く 思わ ない	あ ま り 思 わ な い	ど ち ら で も な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
男には（勉強や仕事で）負けたくない	(1	2	3	4	5)
就職したら男性と同等に働きたい（転勤・出張OK）	(1	2	3	4	5)
デートの時は男性におごってほしい	(1	2	3	4	5)
結婚の条件として男性の経済力は重要である	(1	2	3	4	5)
今の世の中、女性の方が得だと思う	(1	2	3	4	5)
好意を持っている男性の前では女らしくなる	(1	2	3	4	5)
涙は女の武器である	(1	2	3	4	5)
ミスコンは女性差別だと思う	(1	2	3	4	5)
化粧は大人の女性のたしなみである	(1	2	3	4	5)
お店のレディースデーや女性割引は積極的に活用したい	(1	2	3	4	5)
「腹へった」「ウマイ」等の男言葉をよく使う	(1	2	3	4	5)
肌を露出するファッション（ミニスカート、キャミソール）に抵抗がない	(1	2	3	4	5)
結婚して幸せな家庭を持つことは女の最大の幸せだ	(1	2	3	4	5)
友達とエッチな会話が普通にできる	(1	2	3	4	5)
将来、私がお家を継いで両親の面倒をみたい	(1	2	3	4	5)
女性なら料理や家事はできないといけないと思う	(1	2	3	4	5)
今度生まれ変わっても女に生まれてみたい	(1	2	3	4	5)
男なら電気配線等が得意であって欲しい	(1	2	3	4	5)
今の日本社会は男女平等だ	(1	2	3	4	5)
常にカバンの中にハンカチとティッシュが入っている	(1	2	3	4	5)
座っているといつの間にか両脚が開いている	(1	2	3	4	5)
女が2日続けて同じ服を着ることは恥ずかしい	(1	2	3	4	5)
外出前に下着や体が透けていないかどうかチェックする	(1	2	3	4	5)
困ったときは彼氏や夫に頼りたい	(1	2	3	4	5)
出産祝いを買うとしたら、女の子にはピンクや赤の品物を選ぶ	(1	2	3	4	5)

図1 ジェンダー意識調査アンケート用紙

Q1 あなたが結婚したい男性の条件は何ですか。a～uの中から1～3位まで選んで()に記号を記入してください。

<結婚相手> 1位() 2位() 3位()

a 顔・ルックス b 身長・体型(スタイル) c 学歴・職業 d 優しい人 e 経済力 f 才能 g 趣味が同じ
h 性格・価値観が合う i 包容力・男らしさ j おしゃれ・センスがよい k スポーツマン m まじめ・誠実
n リーダーシップ o ユーモア・面白い p 年齢 r 尊敬できる s 清潔感・体臭 t 特にな
u その他()

図2 結婚相手に求める条件

Ⅲ 結果・考察

1. ジェンダー意識調査

(1) 単相関係数

女子大生のジェンダー意識調査に用いた25個の質問項目間における単相関係数を表1に示す。検定の結果、相関が有意であった組合せに** ($p < 1\%$) または* ($p < 5\%$) を記している。

「男には(勉強や仕事で)負けたくない」と他の項目との相関に注目すると、「就職したら男性と同等に働きたい」、「腹へった」「ウマイ」等の男言葉をよく使う」との間に有意な相関がみられた。男性に対して対抗意識の強い被験者は、仕事に対しても男性と同等に認められたいと思っており、また言葉遣いも男っぽい傾向がみられる。

「結婚の条件として男性の経済力は重要である」と他の項目との相関に注目すると、「デートの時は男性におごってほしい」「化粧は大人の女性のたしなみである」「結婚して幸せな家庭を持つことは女の最大の幸せだ」「女性なら料理や家事はできないといけないと思う」「男なら電気配線等が得意であって欲しい」等との間に有意な相関がみられた。結婚願望の強い女性は、結婚相手に経済力を求めており、また女性や男性はこうあらねばならないというジェンダー意識が強いといえる。

「今の世の中、女性の方が得だと思う」と他の項目との相関に注目すると、「好意を持っている男性の前では女らしくなる」「涙は女の武器である」「結婚して幸せな家庭を持つことは女の最大の幸せだ」「今度生まれ変わっても女に生まれたい」「今の日本社会は男女平等だ」等との間に有意な相関がみられた。女性に生まれたことに満足している被験者は、女らしさを求められることや、女性らしく振る舞うことに抵抗がなく、そういう意味で男女は平等であるという意識が高いのではないだろうか。

「将来、私家が家を継いで両親の面倒をみたい」と他の項目との相関に注目すると、「結婚して幸せな家庭を持つことは女の最大の幸せだ」「女性なら料理や家事はできないといけないと思う」「男なら電気配線等が得意であって欲しい」「今の日本社会は男女平等だ」「出産祝いを買うとしたら、女の子にはピンクや赤の品物を選ぶ」等との間に有意な相関がみられた。従来、女性は結婚後に夫の姓を名乗り、夫側の家に入るという考え方が一般的であった。現在では、結婚願望が強く、ジェンダー意識も強い保守的な考えの女子大生であっても、自分の両親の面倒は自分が見ると考えているようだ。彼女たちにとって、結婚=嫁入りではなく、夫の親族の面倒を見るということは別の話なのかもしれない。

表1 単相関係数

単相関	1.0000 -	0.5341 **	1.0000 -	0.0665	1.0000 -	0.0701	0.0341	0.0380	0.0941	0.0215	1.0000 -	0.2127 **	0.3999 **	1.0000 -	0.2895 **	0.2122	0.1943 **	0.0821	0.1083	0.1533 **	0.1632 *	0.0326	0.0317	1.0000 -	0.0849	0.2037 **	0.1943 **	0.0317	1.0000 -	0.0110	0.0633	0.0802	1.0000 -	0.2065 **	0.3084 **	0.5024 **	0.2511 **	0.3854 **	0.1811 *						
男には(働強や仕事で)負けたくない	1.0000 -																																												
就職したら男性と同等に働きたい(転職・出張 OK)	0.5341 **	1.0000 -																																											
デートの時は男性におごってほしい	-0.0701	0.0665	1.0000 -																																										
結婚の条件として男性の経済力は重要である	0.0341	0.0380	0.0941	1.0000 -																																									
今の世の中、女性の方が得だと思う	-0.0380	-0.0818	0.0941	0.0215	1.0000 -																																								
好意を持っている男性の前では女らしくなる	0.0222	0.0341	0.0941	0.1305	0.1878 **	1.0000 -																																							
源は女の武器である	-0.0069	0.1261	0.2604 **	0.1817 *	0.2127 **	0.3999 **	1.0000 -																																						
ミスコンは女性差別だと思う	0.0838	0.1919 **	0.2272 **	0.0573	0.0821	0.2127 **	0.3999 **	1.0000 -																																					
化粧は大人の女性のたしなみである	-0.0007	0.0077	0.0739	0.2504 **	0.1943 **	0.0821	0.2127 **	0.3999 **	1.0000 -																																				
お店のレディーズや女性割引は積極的に活用したい	0.0240	0.1023	0.0388	0.1597 *	0.0922	0.0720	0.1632 *	0.0326	0.0317	1.0000 -																																			
「服へった」「ウマイ」等の男言葉をよく使う	0.2119 **	0.1629 **	-0.1338	-0.0260	0.0210	-0.0082	0.0072	0.0491	-0.0849	0.0317	1.0000 -																																		
服を着た女性を嫌うことは女の最大の幸せだ	0.0283	0.1306	0.1470 **	0.0662	0.1877 **	0.1968 **	0.2524 **	0.1364	0.0847	0.0721	0.0110	1.0000 -																																	
結婚して幸せな家庭を持つことは女の最大の幸せだ	-0.1308	-0.2027 **	0.2182 **	0.2367 **	0.2070 **	0.3281 **	0.1880 **	0.0448	0.2037 **	0.0463	-0.0633	0.0802	1.0000 -																																
友達とエッチな会話を普通に行うことができる	0.0011	-0.0179	0.1248	0.0462	0.2001 **	0.3001 **	0.1010	0.0017	-0.0116	0.0624	0.1242	0.0802	0.0802	1.0000 -																															
将来、私が家を出たら、女の子にはシクや車の品物を薦ぶ	0.1136	-0.0818	0.0061	0.0695	0.1155	0.1533 **	0.1103	-0.0529	0.0828	0.0242	0.1242	0.0802	0.0802	0.0802	1.0000 -																														
将来、私が家を出たら、女の子にはシクや車の品物を薦ぶ	-0.0581	-0.1848 **	0.0383	0.2449 **	0.1711 *	0.2084 **	0.1740 *	0.0339	0.1865 **	0.0231	-0.1029	-0.0433	-0.0226	-0.0624	0.0624	1.0000 -																													
女性なら料理や家事は得意でほしいと思う	-0.0045	0.0399	0.0782	0.1470 **	0.1701 *	0.2084 **	0.1740 *	0.0339	0.1865 **	0.0231	-0.1029	-0.0433	-0.0226	-0.0624	0.0624	0.0624	1.0000 -																												
男なら車やバイクが得意でほしい	0.0008	0.0491	0.2671 **	0.2319 **	0.0327	0.1909 **	0.1212	0.1279	0.1516 *	0.2147 **	-0.0436	0.0739	0.0739	0.0739	0.0739	0.0739	1.0000 -																												
今の日本社会は男女平等だ	0.0070	-0.0808	0.1189	0.0187	0.2168 **	0.2255 **	0.1250	0.1156	-0.0359	0.0210	0.0321	0.0785	0.0785	0.0785	0.0785	0.0785	0.0785	1.0000 -																											
常にカバンの中にハンカチとティッシュが入っている	0.0145	-0.0173	0.0627	0.0611	0.0765	0.1697 **	0.2073 **	0.1048	0.0073	-0.2463 **	0.0614	0.0614	0.0614	0.0614	0.0614	0.0614	0.0614	0.0614	1.0000 -																										
座っているとき、ティッシュをポケットに入れている	-0.0253	-0.0096	0.0162	-0.0598	-0.1346	-0.1449 **	-0.1677 *	0.1028	0.0447	-0.2296 **	-0.2014 **	-0.2014 **	-0.2014 **	-0.2014 **	-0.2014 **	-0.2014 **	-0.2014 **	-0.2014 **	-0.2014 **	1.0000 -																									
女が2日続けて同じ服を着ることは恥ずかしい	-0.0454	-0.0021	0.1232	0.1058	0.0639	0.2296 **	0.2383 **	0.0136	0.0373	0.2944 **	0.2224 **	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	1.0000 -																								
外出前に下着や体が透けていないかどうかチェックする	0.0283	0.0218	-0.0076	-0.0030	-0.0553	0.0638	0.0901	0.0373	0.0373	0.2944 **	0.2224 **	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	0.1143	1.0000 -																							
困ったときは母氏や夫に頼りたい	-0.1683 *	-0.1943 **	0.3355 **	0.2222 **	0.1088	0.3327 **	0.2940 **	0.0196	0.0196	0.2394 **	0.2611 **	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *	0.1406 *		
出産後、おむつを薦ぶ	-0.0555	-0.1735 *	0.2687 **	0.2143 **	0.1771 *	0.2441 **	0.2127 **	-0.0032	-0.0032	0.1854 **	0.1443 *	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233	-0.1233			

無相関の検定 *:.5% **,1%

(2) 因子分析

女子大生のジェンダー意識の基本因子をそれぞれ抽出するために、25個の質問項目を変数に、被験者197名の全評価を観測回数として因子分析を行った。評価値は「全く思わない」から「そう思う」までを1～5点とした。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子負荷量および各被験者の因子得点を求めた。

表2 因子分析（ジェンダー意識調査）
因子負荷量：回転後（バリマックス法）

変 数 名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
	一般的な ジェン ダー意識	女性と しての マナーと 自覚	女らしさ の演技と 計算	男性への 対抗意識
結婚して幸せな家庭を持つことは女の最大の幸せだ	0.6430	0.2362	0.1197	-0.1811
女性なら料理や家事はできないといけないと思う	0.5301	0.2170	0.0415	-0.1723
将来、私家が家を継いで両親の面倒をみたい	0.5065	0.0122	0.0035	0.0670
男なら電気配線等が得意であって欲しい	0.4528	0.3172	0.0372	0.1360
今の日本社会は男女平等だ	0.4504	-0.0713	0.1350	0.0262
出産祝いを買おうとしたら、女の子にはピンクや赤の品物を選ぶ	0.3626	0.2794	0.2173	-0.1981
友達とエッチな会話が普通にできる	0.2156	-0.0566	0.1062	0.0468
化粧は大人の女性のたしなみである	0.0862	0.5029	0.1263	0.0045
女が2日続けて同じ服を着ることは恥ずかしい	0.0206	0.4946	0.1973	-0.1278
外出前に下着や体が透けていないかどうかチェックする	-0.0447	0.4846	-0.0296	-0.0152
お店のレディースデーや女性割引は積極的に活用したい	0.0363	0.4662	0.0391	0.1192
困ったときは彼氏や夫に頼りたい	0.3240	0.4233	0.2661	-0.2378
結婚の条件として男性の経済力は重要である	0.2301	0.3300	0.1548	-0.0140
涙は女の武器である	0.1353	0.2326	0.5688	0.0677
好意を持っている男性の前では女らしくなる	0.2949	0.1789	0.4863	0.0064
肌を露出するファッション（ミニスカート、キャミソール）に抵抗がない	0.0354	-0.0034	0.4738	0.0931
今の世の中、女性の方が得だと思う	0.2978	-0.1576	0.4106	-0.0422
デートの時は男性におごってほしい	0.2080	0.2000	0.3315	-0.0856
座っているといつの間にか両脚が開いている	0.1253	-0.0324	-0.3173	0.1144
ミスコンは女性差別だと思う	0.0652	0.0771	0.2905	0.2443
今度生まれ変わっても女に生まれたい	0.2350	0.1319	0.2864	0.0044
常にカバンの中にハンカチとティッシュが入っている	0.0903	0.1268	0.2400	-0.0731
就職したら男性と同等に働きたい（転勤・出張 OK）	-0.2108	0.0895	0.1352	0.7019
男には（勉強や仕事で）負けたくない	0.0093	0.0312	-0.0329	0.6838
「腹へった」「ウマイ」等の男言葉をよく使う	0.1108	-0.1858	-0.1143	0.3676
固有値（二乗和）	2.0845	1.7627	1.6661	1.4110
寄与率	8.34%	7.05%	6.66%	5.64%
累積寄与率	8.34%	15.39%	22.05%	27.70%

因子分析を行った結果、表2に示すような4因子が抽出された。因子負荷量より各因子の意味を検討した結果、第1因子は、「結婚して幸せな家庭を持つことは女の最大の幸せだ」「女性なら料理や家事はできないといけないと思う」「男なら電気配線等が得意であって欲しい」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“一般的なジェンダー意識の因子”と解釈した。第2因子は「化粧は大人の女性のたしなみである」「女が2日続けて同じ服を着ることは恥ずかしい」「外出前に下着や体が透けていないかどうかチェックする」「お店のレディースデーや女性割引は積極的に活用したい」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“女性としてのマナーと自覚の因子”と解釈した。第3因子は「涙は女の武器である」「好意を持っている男性の前では女らしくなる」「肌を露出するファッション（ミニスカート、キャミソール）に抵抗がない」「今の世の中、女性の方が得だと思う」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“女らしさの演技と計算の因子”と解釈した。第4因子は「就職したら男性と同等に働きたい（転勤・出張OK）」「男には（勉強や仕事で）負けたくない」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“男性への対抗意識の因子”と解釈した。

(3) 因子得点の分布

女子大生のジェンダー意識の各因子について因子得点を算出し、全被験者の因子得点の位置関係を検討した。第1因子と第2因子の分布図を図3に、第3因子と第4因子の分布図を図4に示す。

図3は、よこ軸が第1因子“一般的なジェンダー意識の因子”，たて軸が第2因子“女性としてのマナーと自覚の因子”を示している。各因子のプラスとマイナスの組合せにより、被験者をA、B、C、Dの4領域に分類することができる。

A領域に分布している被験者は、第1因子がプラス、第2因子がプラスであり、結婚観や女性らしさについてのジェンダー意識が強く、かつ女性としての身だしなみやマナーを自覚している女性である。この領域を「ジェンダー社会への順応」と定義する。

B領域に分布している被験者は、第1因子がマイナス、第2因子がプラスであり、男女の役割などのジェンダー意識が低い、女性としての身だしなみやマナーを自覚している女性である。この領域を「選択的女性らしさ」と定義する。

C領域に分布している被験者は、第1因子がプラス、第2因子がマイナスであり、結婚観や女性らしさについてのジェンダー意識が強い、身だしなみやマナーについては無頓着である。この領域を「ジェンダー社会への抵抗」と定義する。

D領域に分布している被験者は、第1因子がマイナス、第2因子がマイナスであり、男女の役割などのジェンダー意識が低く、かつ女性としての身だしなみやマナーについては無頓着な女性である。この領域を「非意図的ジェンダーフリー」と定義する。

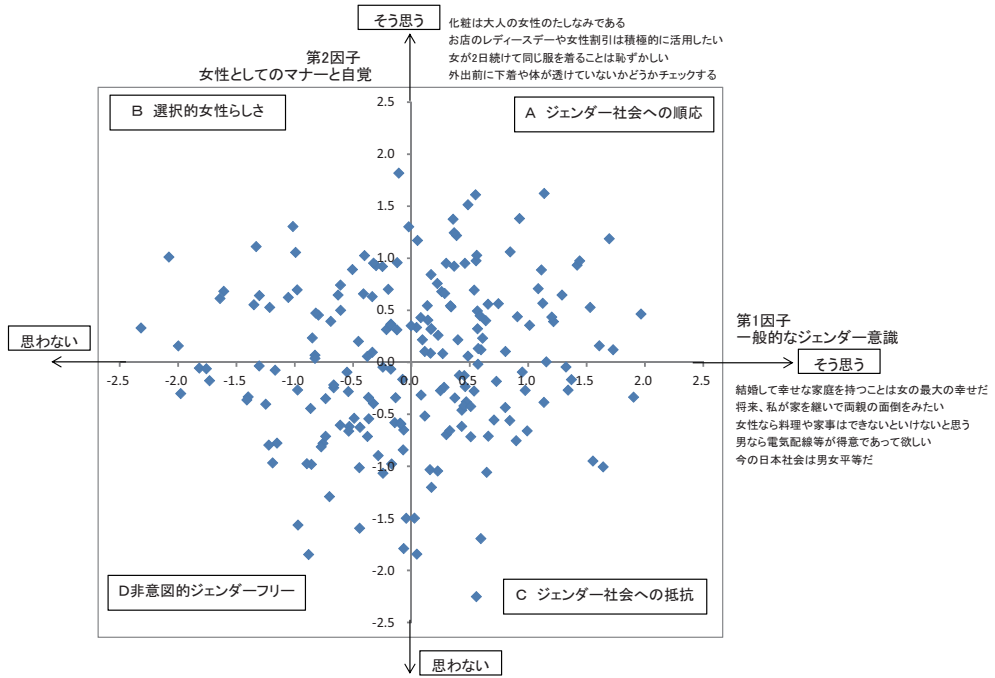


図3 因子得点の分布 (ジェンダー意識) 第1因子と第2因子

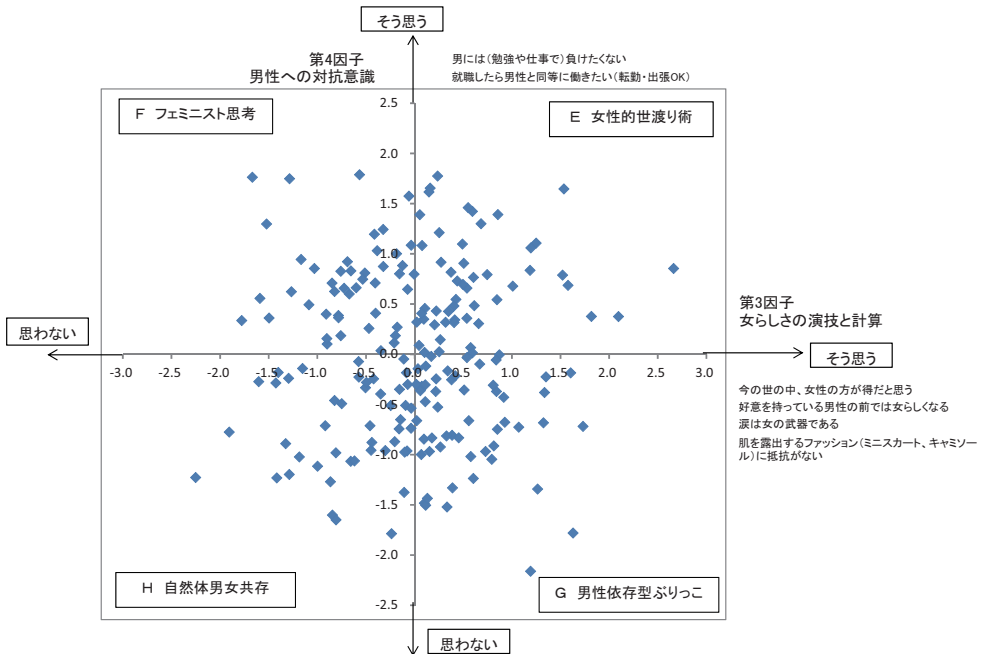


図4 因子得点の分布 (ジェンダー意識) 第3因子と第4因子

図4は、よこ軸が第3因子“女らしさの演技と計算の因子”，たて軸が第4因子“男性への対抗意識の因子”を示している。各因子のプラスとマイナスの組合せにより，被験者をE，F，G，Hの4領域に分類することができる。

E領域に分布している被験者は，第3因子がプラス，第4因子がプラスであり，自分が女性であることを武器として表現しようと心がけているが，男性には負けたくないという対抗意識が強い女性である。この領域を「女性的世渡り術」と定義する。

F領域に分布している被験者は，第3因子がマイナス，第4因子がプラスであり，女性らしく振る舞おうとは考えておらず，男性への対抗意識が強い女性である。この領域を「フェミニスト思考」と定義する。

G領域に分布している被験者は，第3因子がプラス，第4因子がマイナスであり，自分が女性であることを表現しようとしており，男性への対抗意識を持っていない女性である。この領域を「男性依存型ぶりっこ」と定義する。

H領域に分布している被験者は，第3因子がマイナス，第4因子がマイナスであり，女性らしく振る舞うことはせず，また男性への対抗意識が低い女性である。この領域を「自然体男女共存」と定義する。

2. 結婚相手に求める条件

結婚相手の条件について1位，2位，3位まで選んでもらった結果を図5に示す。集計に際しては，1位に3点，2位に2点，3位に1点を与えて点数化し，合計点により比較を行った。

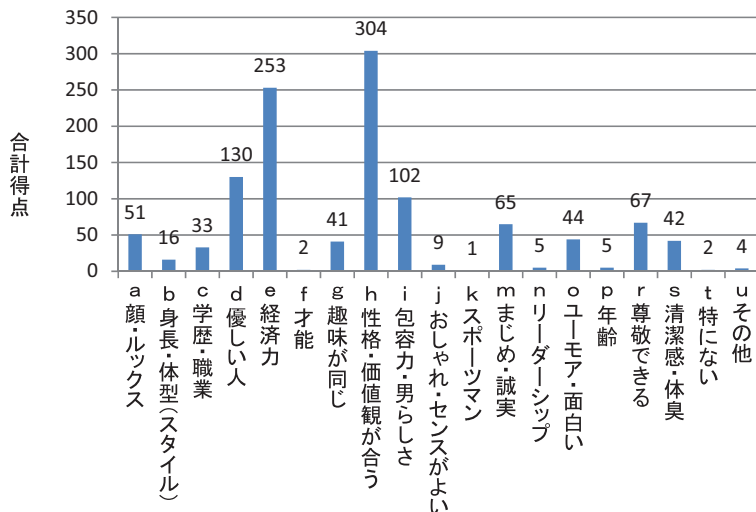


図5 結婚相手に求める条件（1位～3位を点数化）

結婚相手に求める条件として、「性格・価値観が合う」の得点が最も高く、次いで「経済力」「優しい人」「包容力・男らしさ」が続いた。

3. ジェンダー意識と結婚相手に求める条件との関係

図6は、前述の図3の因子得点の分布図（よこ軸が第1因子“一般的なジェンダー意識の因子”，たて軸が第2因子“女性としてのマナーと自覚の因子”）の被験者を、結婚相手の条件の第1位に何を選んだかによってカテゴリー分けしたグラフである。

図2の結婚相手に求める条件の選択肢を、表3に示す5つのカテゴリーに分け、被験者の因子得点をカテゴリーごとに算出し、図中に記号を変えて表示している。

結婚相手の条件1位に「相性」を選んだ被験者（○）は、どの領域にも万遍なく分布しており、ジェンダー意識の傾向に関わらず、結婚相手との相性は重要と考えているようだ。ただ、「B 選択的な女らしさ」の領域での分布が少ないことから、一般的なジェンダー意識は低いが、女性としての身だしなみや恥じらいを自覚している被験者にとって、相性よりも重視する結婚相手の条件が存在するということがわかる。

「経済力」を選んだ被験者（■）も、第1因子がプラス側に多く分布している。結婚相手に経済力を求める女性は、結婚することが幸せであり、当然と考えており、一般的な女性らしさや男性らしさの概念が強い。しかし、理想的な結婚のためには経済力は不可欠と考えており、現実主義の面も見られる。

「内面・性格」を選んだ被験者（▲）は、第2因子がプラス側に多く分布している。彼女らは化粧や服装等に気を遣い、自分が女性であることを意識している女性である。日常的に自分の女性としての性を意識している女性の場合、男性には内面的な優しさや誠実さを求める傾向があるようだ。それは、女性に対して暴力的な言動で傷つけることをしない男性という意味かもしれない。特に「A ジェンダー社会への順応」の領域での分布が多く、彼女らは現代のジェンダー社会に反抗しない従順な女性達であり、自分が傷つかない防御策として、優しい男性を理想としているのだろう。

「男らしさ」を選んだ被験者（●）は、ほとんどが「B 選択的な女らしさ」の領域に分布

表3 結婚相手に求める条件のカテゴリー分け

「相性」	g 趣味が同じ, h 性格・価値観が合う
「経済力」	c 学歴・職業, e 経済力, f 才能
「内面・性格」	d 優しい人, m まじめ・誠実, o ユーモア・面白い
「男らしさ」	i 包容力・男らしさ, n リーダーシップ, k スポーツマン
「外見」	a 顔・ルックス, b 身長・体型（スタイル）, j おしゃれ・センスがよい

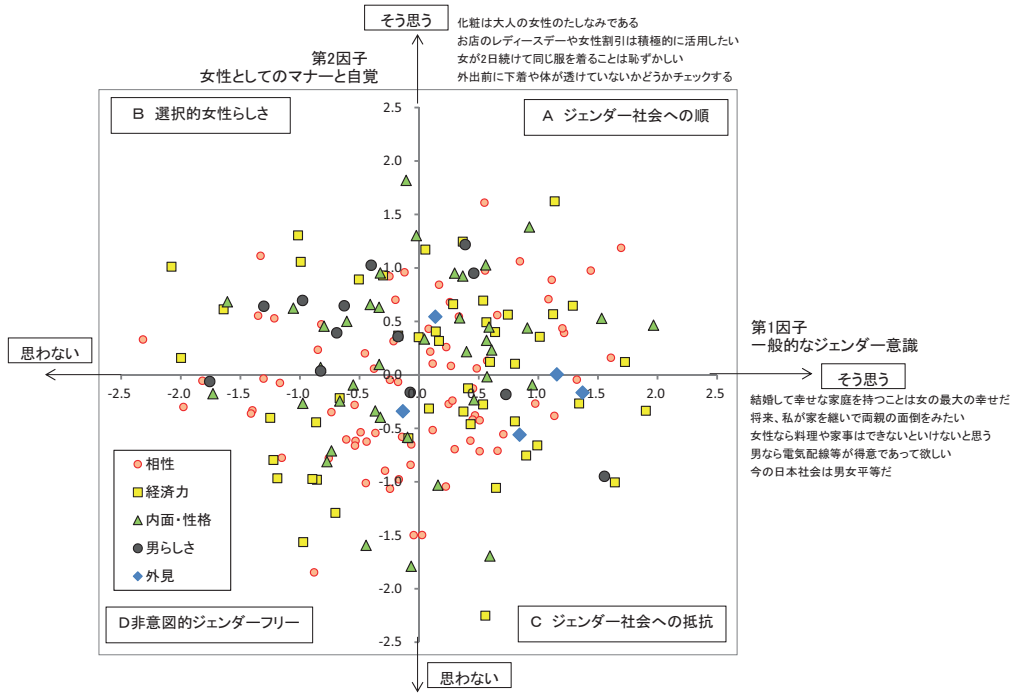


図6 因子得点の分布図—ジェンダー意識と結婚相手に求める条件との関係—(第1因子と第2因子)

している。この領域には「相性」を選んだ被験者が少ないと前述したが、男らしくて包容力がある男性であれば、価値観が合う必要はないと考えているようだ。男性には、一家の大黒柱として家族を支える力を求めており、ある意味、昭和的な結婚観（亭主関白型）を持っているのかもしれない。

「外見」を選んだ被験者（◆）は、ほとんどが第1因子プラス側に分布している。彼女たちは幸せな結婚を希望し、男性への理想（ジェンダー的な意味での）を高く持っている。その理想の中には、顔や身長 of 要素も入っているようだ。概して、まだ結婚や相手に対して妄想的な理想を抱いているのみで、現実として捉えてはいないと思われる。

図7は、よこ軸が第3因子“女らしさの演技と計算の因子”，たて軸が第4因子“男性への対抗意識の因子”の因子得点の分布図である。結婚相手に求める条件によって記号を変えて示している。

結婚相手の条件1位に「相性」を選んだ被験者は、第4因子がプラス側に多く分布している。すなわち、男性と同等に仕事をしたいと思っている女性である。基本的に自立志向が強いため、男性に相性以外の何か負担（男らしさや経済力）を要求するという考えがないと思われる。

「経済力」を選んだ被験者は、第3因子がプラス側に多く分布している。第3因子「女らし

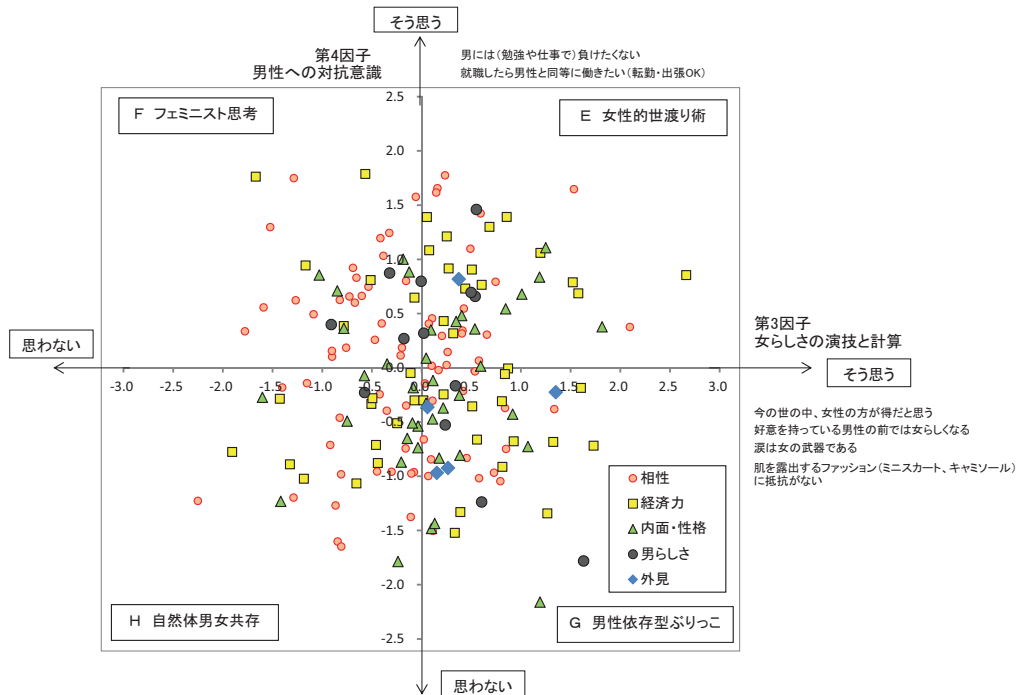


図7 因子得点の分布図—ジェンダー意識と結婚相手に求める条件との関係—(第3因子と第4因子)

「女の演技と計算」が高い女性は、女性の特権や利点を理解しており、特に男性の前では女性らしく振舞う傾向がある。自分の女性的な魅力を把握しているだけに、男性には経済力という別次元での魅力を要求するのかもしれない。唯一、「F フェミニスト思考」領域には、経済力を選んだ被験者の分布が少なかった。女性らしく振舞うことを否定し、かつ男性に対抗意識を持っている被験者は、経済面で男性に頼ろうという考えは持っていないのだろう。

「内面・性格」を選んだ被験者は、第4因子がマイナス側に多く分布している。彼女たちは男性への対抗意識が低く、仕事や勉強で異性と競うことを望まない女性といえる。それゆえ、結婚相手に対しても、他人と争わない、平穏で優しい性格を求めていると思われる。

「男らしさ」を選んだ被験者は、第4因子がプラス側に多く分布している。男性への対抗心が強く、男性と同等に働きたいと思っている女性は、自立心が強く、男性に頼ろうという意識が低い。したがって、結婚相手には、自分を上回る強い精神力や、仕事の能力、リーダーシップを求めるのではないだろうか。第4因子がマイナス側にも「男らしさ」を選んだ被験者はいるが、第4因子プラスの被験者とでは求める男らしさのレベルは異なるであろう。

「外見」を選んだ被験者は、ほとんどが「G 男性依存型ぶりっこ」の領域に分布している。彼女たちは、自身の女性としての存在や魅力をアピールする行動をとる傾向が強く、また、男

性への対抗意識が低い。前述の図6の結果から、「外見」を選択した被験者は、世間一般のジェンダー意識が強い傾向がある。したがって、女性が女らしく振舞うことに抵抗がなく、服装やメイクにも気を使っていると思われる。美意識が強いがゆえに、男性にも美しさを求めるのではないだろうか。

IV ま と め

女子大学生を対象に、ジェンダー意識に関するアンケート調査を行い、因子分析により考察を行った結果、以下のことが明らかになった。

- (1) ジェンダー意識調査に用いた質問項目間の単相関係数より、以下の傾向がみられた。
 - ・男性に対して対抗意識の強い被験者は、言葉遣いも男っぽい傾向がある。
 - ・結婚願望の強い女性は、ジェンダー意識が強い。
 - ・女性に生まれたことに満足している被験者は、女性らしく振る舞うことに抵抗がなく、男女平等の実感が高い。
- (2) ジェンダー意識について因子分析を行った結果、“一般的なジェンダー意識の因子”“女性としてのマナーと自覚の因子”“女らしさの演技と計算の因子”“男性への対抗意識の因子”の4因子が抽出された。
- (3) 結婚相手に求める条件を集計した結果、1位「性格・価値観が合う」、2位「経済力」、3位「優しい人」、4位「包容力・男らしさ」の順になった。
- (4) ジェンダー意識と結婚相手に求める条件との関係について考察した結果、以下のことが明らかとなった。
 - ・結婚相手の条件1位に「経済力」を選んだ被験者は、一般的なジェンダー意識が強く、理想の結婚のためには経済力は不可欠と考えている。反対に、男性と同等に仕事をしたいと思っている被験者は、基本的に自立志向が強いため、「経済力」を選ばない傾向がある。
 - ・結婚相手の条件に「内面・性格」を選んだ被験者は、日常的に自分の女性としての性を意識しており、男性に優しさや誠実さを求める傾向が強い。また、男性への対抗意識が低く、結婚相手に対して、平穏で優しい性格を求めている。
 - ・結婚相手の条件に「男らしさ」を選んだ被験者は、ジェンダー意識が低いですが、女性としての身だしなみやマナーの意識が高い傾向がある。また、男性への対抗意識が強い被験者が多く、結婚相手に自分以上の強さや、リーダーシップを求めていると思われる。
 - ・結婚相手の条件に「外見」を選んだ被験者は、幸せな結婚を希望し、容姿を含めた男性

への理想が高い。また、女性をアピールする行動をとることに抵抗がなく、男性への対抗意識が低い。

最後に、アンケートにご協力いただいた皆様へお礼を申し上げます。

文 献

- 1) 三木幹子, 「女子大生の恋愛と結婚に対する意識調査(第2報)—理想の男性像に関する意識と、好きな男性有名人のイメージとの関係—」, 広島女学院大学論集, 第64集(電子版第4号), pp. 23-38, 2017年2月
- 2) 三木幹子, 「女子大生の恋愛と結婚に対する意識調査—理想の男性像と、男性への許容意識との関係—」, 広島女学院大学論集, 第63集(電子版第3号), pp. 103-117, 2016年2月
- 3) 三木幹子, 「男性の恋愛観とジェンダー意識との関係」, 広島女学院大学人間生活学部紀要, 第2号, pp. 1-12, 2015年3月
- 4) 三木幹子, 植木由香, 「女性と男性の恋愛観・結婚観に関する意識比較」, 広島女学院大学論集, 第61集, pp. 95-112, 2011年12月
- 5) 三木幹子, 植木由香, 「女子大学生と女子高校生の恋愛観・結婚観とジェンダー意識との関係」, 広島女学院大学論集, 第60集, pp. 95-109, 2010年12月